

## 定例記者会見要旨

日 時：令和2年11月11日（水）16：10～16：40

場 所：日本薬剤師会第二会議室

出席者：山本会長、安部副会長、磯部専務理事

### 提出資料：

1. 予算・税制等に関する政策について  
(令和2年10月28日付、自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」資料)
2. 医療改革について  
(令和2年11月9日付、自由民主党 政務調査会 人生100年時代戦略本部 医療改革に関するヒアリング(説明資料))
3. 医薬品販売制度対応に関する自己点検の実施について  
(令和2年10月23日付 日薬業発第325号)
4. 「かかりつけ薬剤師・薬局」特設サイトPRキャラクター「ファーマー」のイラストに関するご使用について  
(令和2年11月10日付 日薬業発第340号)
5. 公益社団法人日本薬剤師会第96回臨時総会の開催について  
(令和2年11月6日付 日薬発第191号)

### 1. 予算・税制等に関する政策について

磯部専務理事より掲題の件について、10月28日（水）に開催された自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」のヒアリング内容を踏まえ、説明された。主な内容は以下の通り。

#### ① 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う薬局経営への財政支援

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の拡大に伴い、処方箋の長期化や患者の来局が減少し、薬局の実収入である技術料も減少する一方、長期処方による医薬品購入額の急増によって、キャッシュフローの悪化が重なり、薬局経営へ大きな影響を与えている。

すでに、実施されている事業者支援策は、売上が減少しないと利用できないものが多く、調剤報酬における薬剤比率を考慮すると、薬局は売上に技術料の減少が反映し難い構造のため、キャッシュフローの悪化が生じても支援金を利用できない。

また、COVID-19は長期化が予想されており、来年度においても薬局機能を維持するための必要な財政的な支援を要望したい。

#### ② かかりつけ薬剤師・薬局機能の充実・強化

「患者のための薬局ビジョン」（平成27年10月）の実現に向けて、平成28年～30年度に実施されたモデル事業に続き、令和元年度には薬局機能強化・連携体制構築のための事業が実施された。令和2年度は、薬機法改正で新たに位置付けられた認定薬局の整備・促進事業の費用が計上されている。

来年度においても、本事業の更なる充実を図るとともに、改正薬機法に明示された薬剤師・薬局の役割と機能を踏まえ、健康サポート薬局機能も含めた、薬局のかかりつけ機能の充実・強化

・定着に向け、地域における薬局間の連携強化、多職種連携、地域住民への医薬品や健康相談への対応、介護・認知症等の初期相談や自殺防止対策等の充実・強化のために、予算措置の一層の拡充を要望したい。

### ③ 薬局（施設）認証システムの基盤整備

電子処方箋の運用に関しては、令和4年度の実施に向けてガイドラインの変更や、種々の検討が開始されており、不正がなく安全な形で実現するには、医療介護従事者並びに、医療提供施設や介護サービス事業者を電子的に識別・確認するための、HPKI（Healthcare Public Key Infrastructure）電子認証基盤の構築が必須となる。

本会は、平成28年より薬剤師のHPKI認証を開始しているが、薬剤師という個人の認証に加え、電子処方箋をはじめとするデジタル化には、薬剤師の資格認証と併せて、薬剤師が業務する施設としての薬局等の施設HPKI認証基盤の整備も必要であることから、両者の普及・整備のために所用の予算措置を要望したい。

### ④ 介護報酬改定

来年4月に予定されている介護報酬改定については、必要な財源の確保と、それぞれの専門職が有する機能や能力を発揮できるような公平な配分、薬剤師の業務に対する適切な評価を要望したい。

### ⑤ 来年度薬価改定

薬局、医療機関、医薬品メーカー及び医薬品卸のいずれも、COVID-19への対応に総力戦で対応しており、従来は対面で行われた医薬品の価格交渉が行えず、流通形態も平時とは大きく様相が異なっている。従って、過去と比較して、薬価調査時の環境も著しく異なる状況下で行われており、数字の信頼性についても問題を含む等の点が指摘されていることから、「薬価改定に必要な適切な市場実勢価格を把握する」という、本来の趣旨に沿った「結果が適切であったか」について十分な検討が必要である。

### ⑥ 課税繰り延べ制度の拡充

COVID-19は終息までに時間がかかることが想定されることから、経営悪化の長期化が懸念される。経営基盤が脆弱である多くの薬局にとっては、今回のCOVID-19拡大による経営への影響は甚大であり、その回復までに多くの年数を要することが想定される。

従って、薬局の地域医療提供体制における機能を的確に維持して、地域の医療を守る観点から、画一的に課税することなく、赤字・黒字を問わず、経営が悪化した薬局であれば課税繰り延べを認めることを要望したい。

### ⑦ 新型コロナウイルス感染症ワクチンの優先接種

9月25日に行われた「新型コロナウイルス感染症対策分科会（第10回）新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について（中間とりまとめ）」では、ワクチンの接種順位として、「新型コロナウイルス感染症患者（新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む。以下同じ）」に「直接医療を提供する施設の医療従事者等」と記載されたが、直接医療を提供する施設の医療従事者に『医療機関（病院・診療所）の薬剤師、保険薬局の薬剤師及び患者対応を行う従業員』を、ワクチン優先接種の対象として明示的に記載することを地域医療提供体制維持・確保のために付け加えることを要望したい。

## 2. 医療改革について

山本会長より掲題の件について、11月9日（月）に開催された自由民主党政務調査会 人生100年時代戦略本部の医療改革に関するヒアリング内容を踏まえ、説明された。主な内容は以下の通り。

#### ① 高齢者窓口負担

高齢者の窓口負担の増加は、患者の受診控えを引き起こし、重症化につながるものが懸念される。特に、高齢者は罹患する疾病も多く、複数科、長期、頻回受診の傾向が大きく、窓口負担が増えると若年世代と比べて、大きく負担が増す。

そのため、窓口負担の見直しにあたっては、高齢者の受診の特性や収入・所得の状況や高齢者の生活等に十分配慮し、慎重な対応が必要である。

#### ② 薬剤自己負担の導入

本来、国民自ら判断し使用する市販薬と保険医療上必要な医療の提供に用いる医薬品とは、類似した成分が含まれていても、使用に至る状況が異なるものであり、市販薬として販売されることのみを以って、保険上の取扱いを変えることは理解し難い。

保険医療上必要な医薬品が保険給付されることが国民の安心につながるため、「必要な医療、医薬品が保険給付される」という我が国の医療保険制度の原則に沿った対応が重要である。

#### ③ 予防・健康づくり -健康寿命の延伸-

人生100年時代の安心の基盤は健康である。生涯を通じて健やかに過ごすためには予防・健康づくりが重要であり、かかりつけ薬剤師によるセルフケア、セルフメディケーション支援と併せて、セルフケアで必要な医薬品へのアクセスの確保が必要である。

#### ④ WITH コロナの中での地域医療提供体制における薬剤師・薬局の機能維持

薬局経営にも大きな影響が出ていること、新型コロナウイルス感染症の長期化が懸念されていることを踏まえ、コロナ禍にあっても、地域の医薬品提供拠点として、かかりつけ機能を強化し、薬局機能を維持していくため、要員確保等に資する財政面での支援を願いたい。

また、地域への適切な医療提供体制、地域医療提供体制の維持・確保のため、医療機関の薬剤師、保険薬局の薬剤師及び患者対応を行う従業員を、ワクチン優先接種の対象とされたい。

### 3. 医薬品販売制度対応に関する自己点検の実施について

磯部専務理事より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

今般、本会では会員の従事する薬局・店舗が医薬品販売制度における法令を遵守していることを確認する目的で、医薬品販売制度対応に関する自己点検を実施することとなった。

令和元年度医薬品販売制度実態把握調査（令和元年11月～令和2年2月）の調査結果では、「第1類医薬品における文書を用いての情報共有」及び「濫用等のおそれのある医薬品の複数購入」において対応が不十分であることを確認したため、点検表において重点確認項目とした。

また、令和元年度厚労科研「一般用医薬品の適正使用の一層の推進に向けた依存性の実態把握と適切な販売のための研究」については、「濫用等のおそれのある医薬品」の規制の対象となっていない総合感冒薬等（一部の製品）の頻回購入や複数購入が確認されたことから、規制の対象となっていない医薬品も含めて確認項目とした。

### 4. 「かかりつけ薬剤師・薬局」特設サイトPRキャラクター「ファーミー」のイラストに関する

## ご使用について

安部副会長より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会では、薬剤師職能等に関する国民向けPRとして、「かかりつけ薬剤師・薬局」特設サイトを開設し、平成29年5月以来、患者や生活者方への「かかりつけ薬局・薬剤師」認知拡大等の広報を行ってきた。

同サイトのPRキャラクターとして使用している「ファーミー」については、特設サイトの公開後、都道府県薬剤師会他より、「くすりと健康の週間」向けポスター等で使用したい旨の要望があり、その後に発出した「新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施薬局 みんなで安心マーク」で使用されたマスク姿の「ファーミー」のイラストについても同様の要望があった。

今般、当該要望を踏まえて、都道府県薬剤師会、地域薬剤師会、日本薬剤師会会員が、「ファーミー」のイラストを利用できるように、「ファーミーのイラストに関する利用規約」及び「ファーミーのイラストに関する利用届出書」を作成した。

なお、「ファーミー」のイラスト（サンプル）、「利用規約」及び「利用届出書」等は、日薬ホームページ（会員向け）に掲載をする予定である。

## 5. 公益社団法人日本薬剤師会第96回臨時総会の開催について

安部副会長より掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

来月、12月8日（火）に、第96回臨時総会を開催するので報告をする。議題は「議案第1号日本薬剤師会年金制度廃止に伴う年金資産分配開始の件」についてである。

この件は6月27日の第95回定時総会において、年金保険制度の廃止を議決しており、その後の手続きとして、加入者の同意書が集まりつつある状況を踏まえて開催することに至った。

## 記者からの質問は以下の通り

**記者：**日薬会員の年金廃止について、同意書の回収状況を伺いたい。

**安部副会長：**既に8割程の同意書を回収できている。一方で、連絡が取れない会員についても、同意していただけるように、引き続き丁寧な対応を心掛けたい。

**記者：**11月末までが期限のはずだが、予定通りに回収できそうか。

**安部副会長：**ある程度の回収はできている。来月（12月）の第96回臨時総会にて年金資産の分配を決める予定である。

**記者：**来年度の薬価改定は、今後政府との話し合いでどうなるのか、また薬価調査の数字の信頼性とはどのような基準なのかを伺いたい。

**山本会長：**本来、薬価改定は、患者の負担を減らす目的で2年に1回行われてきた。しかし、COVID-19の流行に伴い、これまでとは違う環境で行われた価格交渉の結果が、実相を表しているかについては懐疑的である。

**記者：**11月11日に開催された中央社会保険医療協議会では、処方箋の先発から後発医薬品への「変更不可」欄廃止を議論された。本件について、日薬としての意見を伺いたい。

**山本会長：**薬剤師に後発医薬品への変更は任せてほしいという思いは変わらない。ただ、これまでの後発医薬品への変更に関する処方箋様式に、中医協での議論や最近の度重なる後発医薬品の

品質不良、回収の状況は良く踏まえないといけないので、直ちに「変更不可」欄を削除すべきかどうかは、今後の議論が必要と考えている。

**記者：**以前、日薬では後発医薬品の推薦を検討していたが（結局、推薦はしなかった）、今後もそのような考えはあるのか。

**山本会長：**海外では後発医薬品を推薦する動きもあるようだが、個人的には賛成をしていない。ただし、後発医薬品の品目数が多い点等の整理をする必要性は感じている。

次回の定例記者会見は、令和2年11月26日（木）、16：00～

以上